

春の訪れを、町自慢の景色や食べ物で堪能してもらおうと4月14日(出)15日(日)の2日間、今年が5回目となる「こどもり春物語ツアー」が行われました。

参加したのは、青森市や八戸市、弘前市から参加した19人。1日目は、津軽中里駅の金多豆蔵人形シアターや小説「津軽」の像記念館のほか、春の陽光きらめく「七つ滝」といった町の勝地を訪れ、夜には交流会が催されました。

今年の交流会は民宿「青岩荘」で開かれ、スコップ三味線や権現漁火会のおさこいなどを楽しみました。また、この日は好天だったせいかわ、めつたに



【民宿「青岩荘」で開かれた交流会】

ごみ拾いで美しい海保護

小泊海岸を守る会が清掃奉仕



春の観光シーズン到来に合わせて4月28日(出)、小泊海岸を守る会が主要な海岸、道路の清掃奉仕活動を行ってくれました。

今年で6回目となるこの日の活動に参加したのは、齋勝建設(株)、宝森建設興業(株)、島村産業(株)、(株)竹内組、(株)青南商事、(株)環境工学の6社。合計で約180人もの人たちが、冬の間に打ち上げられたり、捨てられたりしたごみを拾いました。

参加者は、小泊マリンパークや折腰内海岸、そして小泊中心部から坂本台までの竜泊ラインといった、観光客が目にする小泊の各所を、ごみ袋を持ちながらいねいに拾い歩きました。

6社には、すすくこどもり館で行われた昼食のとき、町から感謝状が贈られました。

見られない美しい夕陽が参加者たちを魅了しました。テーブルには、鯛やメバル、ヤリイカの刺身などのほか、イカ焼きそば、サメの唐揚げ、あら汁など、小泊の海の幸がふんだんに並べられ、参加者が舌鼓を打っていました。

2日目は、徐福の里物産品直売所に舞台を移し、イカ飯づくりを体験。下前地区のお母さんたちに教えてもらいながらつくったほか、合間にはメバルのうしお汁、ホッケ焼き、イカ焼きなど、これでもかといわんばかりの内容。最後には豪華景品が当たるドアップ大会も行われ、参加者たちは2日間、小泊

の魅力をもっと味わってほしい。今回初めて参加したという青森市から来た女性は「天気がよくて本当によかった。受け入れ態勢がすごく、至れり尽くせりで帰りたくない(笑)。他の人にもPRして、来年もまた来たい」と、ツアーを満喫した様子でした。

■会員を募集中

今回は「ヤリイカ」をメインにしてツアーを企画したという、小泊観光協会の川山光則会長は「今回も無事開催でき、節目の5回目を迎えられた。中里にも金多豆蔵という大きな観光コン

テンツが誕生し、町全体での観光気運が盛り上がりつつある。これを機会に、協会も小泊だけでなく、中里も含めた観光振興のお役に立てたらと思っています」と話していました。

小泊観光協会では「ぜひ、中里の人たちにも力を貸してほしい。ゆくゆくは、中泊町観光協会」になれれば」と話していて、同協会の活動に賛同・応援してくれるメンバーを募集中だとのこと。事業者はもちろん、個人の参加もお待ちしているそうです。

入会やお問合せは、小泊観光協会(☎64-3700)まで。

